



ワキ美尾

源太

星あはるの口もわく熱田

の宮まゐるに 杵是の當へる

つゝもる尾下あはるも尾切

契田の明神の神をくはる由

そふとよもせはひ急し美指

せこの宜旨と縁に唯へあつ

所々なるやうにさういふもの
 式は見えぬ當社のついでにこゝては
 うさぐさい垣守やぐさぐさなる
 所をうへていつか庭をいふうう
 ところへさういふううは必大形社
 前よりいへ垣をうへていふさう事
 なるものあるもさういふものなり

ちこころへいささか當社の
 寺をうへていつか庭をいふうう
 多くいふも當社のついでにこゝては
 社に併つていつか庭をいふうう
 性時素直鳥さういふものなり
 ちこころへいささか當社の
 寺をうへていつか庭をいふうう
 多くいふも當社のついでにこゝては
 社に併つていつか庭をいふうう
 性時素直鳥さういふものなり

其ハ宜垣ヲ築クモ由^ル然^ルハ^正不^レ
審^ハあ^レも^レ自^ラう^レこ^ト又^ハ謂^フと^ハ其^ノ
有^ル租^ハや^レさ^レて^ハ土^ノ雲^ハと^ハ一^ニ種^ノ和^スる^ハ意^ハ
殊^ニの^ハ事^ハあ^レり^トも^レし^トを^ハ人^ノ
景^ノ行^ハ弟^ニの^ハ皇子^ハ日本^ニ武^ノの^ハ東^ニ
夷^トと^ハた^レけ^ハ國家^ヲと^ハ静^メめ^ルつ^レ并^ニ
よ^ク安^カ地^ヲと^ハな^レば^ハな^レう^レけ^ハの^ハと^ハる

所^ニ再^ニ來^ス 元^ノ生^ハ所^ニ度^ハの^ハ方^ニ便^ニと^ハる^ハ
或^ハ人^ノ名^ハ世^ニ 或^ハ父^ノ神^ノノ^ハ代^ハと^ハ思^フ自^ラ
土^ノ雲^ハの^ハも^ハ柱^ニと^ハな^レう^レと^ハる^ハハ
土^ノに^ハ家^ヲを^ハ隔^テて^ハか^レる^ハと^ハり^トダ
柱^ハと^ハな^レう^レと^ハる^ハハ 一^ニ種^ノ和^スる^ハ和^ス
の^ハ神^ノ所^ニ一^ニ心^ニと^ハあ^レる^ハと^ハる^ハハ
三^ニ次^ニの^ハ夏^ハの^ハ日^ハ埃^ハ田^ハの^ハも^ハち^ハう^レと^ハる

つゝ心^{ハハ}を^{ハハ}あ^{ハハ}み^{ハハ}の^{ハハ}破^{ハハ}れ^{ハハ}皮^{ハハ}の^{ハハ}凡^{ハハ}れ^{ハハ}
声^{ハハ}祢^{ハハ}の^{ハハ}星^{ハハ}の^{ハハ}も^{ハハ}も^{ハハ}涼^{ハハ}に^{ハハ}
方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}も^{ハハ}夏^{ハハ}を^{ハハ}金^{ハハ}を^{ハハ}と^{ハハ}く^{ハハ}
上^{ハハ}と^{ハハ}同^{ハハ}座^{ハハ}の^{ハハ}密^{ハハ}の^{ハハ}密^{ハハ}の^{ハハ}密^{ハハ}の^{ハハ}密^{ハハ}
ら^{ハハ}の^{ハハ}威^{ハハ}く^{ハハ}と^{ハハ}と^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}
是^{ハハ}ハ^{ハハ}叙^{ハハ}の^{ハハ}祢^{ハハ}の^{ハハ}祢^{ハハ}の^{ハハ}祢^{ハハ}の^{ハハ}祢^{ハハ}
弟^{ハハ}の^{ハハ}皇^{ハハ}子^{ハハ}の^{ハハ}日^{ハハ}本^{ハハ}武^{ハハ}の^{ハハ}武^{ハハ}の^{ハハ}武^{ハハ}
地^{ハハ}の^{ハハ}地^{ハハ}の^{ハハ}地^{ハハ}の^{ハハ}地^{ハハ}

又^{ハハ}代^{ハハ}の^{ハハ}天^{ハハ}照^{ハハ}石^{ハハ}の^{ハハ}石^{ハハ}の^{ハハ}石^{ハハ}
と^{ハハ}と^{ハハ}雲^{ハハ}の^{ハハ}雲^{ハハ}の^{ハハ}雲^{ハハ}の^{ハハ}雲^{ハハ}
珍^{ハハ}の^{ハハ}珍^{ハハ}の^{ハハ}珍^{ハハ}の^{ハハ}珍^{ハハ}
と^{ハハ}と^{ハハ}解^{ハハ}の^{ハハ}解^{ハハ}の^{ハハ}解^{ハハ}の^{ハハ}解^{ハハ}
若^{ハハ}人^{ハハ}の^{ハハ}若^{ハハ}人^{ハハ}の^{ハハ}若^{ハハ}人^{ハハ}の^{ハハ}若^{ハハ}
と^{ハハ}と^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}
と^{ハハ}と^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}
と^{ハハ}と^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}の^{ハハ}方^{ハハ}

乳娘を稲田姫といふなり源太夫五十一大蛇の横を歩氏比きあるとヤミを反六き
きく反其姫をわきよけ中きよ其姫
をのびへしきりふ上其後の心
なきてきよ姫をきり上きりて大
蛇をきり入同上其尾なき金と最
雲の鯉を付一つる此の宮

かちりよきハ鯉上の明神ハうの
時の稲田姫あまの父の方時を
りて保る父の神を東海東海通
る様人とらとらとらひなまへ

現在早の神祕のきりヒトえきあ
らききりしきり早きりしきり
きりしきりしきりしきりしきり

卷之五

秋子摩乳

脚摩乳

知不足齋

顯
常

4
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 5

おのれ
勅定^{しつてい}
の
仗^{たけなす}
あふ
故^{ゆゑ}
あり
て
は

神志人忠恕いふけ妻及ぶ

[illegible]

の、
志^き之^のう^うや^や名^な業^{ごう}と^とて^て行^{ぎやう}は^は方^{はう}部^ぶ

ありふた
あふた

冬コ一セイヨク

吾は眞如の妙なる

有爲の
習ひを
とて
縁

九
 元
 王
 と
 ね
 う
 の
 神
 板
 作
 る
 わ
 の

事あり
又無縁の
ふりま

東海道を日夜

京坂のあはれ

上
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

新刊 天竺寺

新太史公

心願きんぎょつるべさるあはれ
 ろるあり シテ 中もむりやあはれ
 及ばやあはれの曲とつては
 稀人よさをや 早 空を是も
 ろれたるさて後さき 早 なるの
 中 早 とならる報のや 早 せぬ
 ろる シテ 八奈を 早 佳 早 け

さうれ 思ひ出
たふ太鼓のやほへも妙女
秘曲と流るゝもくみあはるゝ
柏子へうりよりい良のきん
面白なるありふらば
赤
赤上ヤア
ネチヤ
面白なるありふらば
くやくしるゝにちあまや月を照
そいねのえ涼しめて秋さひわ

你太乞五ノ

たきくわにんじん同のわきあ
もくしちりあとりなりふい
てや神仙の蹟あまなむ
沖代のまじは世にまゝ安樂
るく琴瑟はまじりてさうこ
きていしや官商のありさ
りけり声おやよあひ舞弄の

[illegible]

甲子辰年

三帰

賢に君の勅よりて、
若くは吾妻の
様より急し、
相見はてしの聖王
ははちりしとあり、
相見信濃國
本宿の郡に宿まの
里にて在り
る、
彼所は三帰の
所なり、
有る者
目には、
變つとあり、
よれ由君より
まされ

中託のしきるくしきるの宣旨

と家の中へ信濃の宿まの星
や急ぐ上は百並に下つてゆく
の油くあひきてゆく
山又山とあさく行く様衣
本膏のふつても西付や
夜半のさけふれ星はまじり

ツル男

モイシ

く信濃路や本膏のふつても
はきく向反もあはれ花うも
霞ささる谷のうへ
声あけし
あさく採る薪の尾上へ鐘は
うくさくさくただろや
あさくまのり本膏の麻衣袖

ちりく く 財の家居の業あま
 り り 橋 し 列 て くる る ち
 白雪の る 落 る 谷 の
 水も岩根 を 子 く
 まき ち 採 る 事 は 事 は
 事 は 事 は 行 る 事 は
 事 は 事 は 事 は

事 は 事 は 君 は 下
 ま く 事 は 事 は
 事 は 事 は 事 は
 事 は 事 は 事 は
 事 は 事 は 事 は
 事 は 事 は 事 は
 事 は 事 は 事 は
 事 は 事 は 事 は

勅使

三

今

具

成るに

愛子来

人

暫

其

子

胡

己丑

七

三
三

三篇
其の床に片は役乃行者皆座
とありて観念の妙なりと
そしつて一
翁は生前もあつた
唯そのつらつらと
寝る床にちとせと
其つらに壽命の度薬と眼

一三度よりや故より三帰
翁をふ付たり典有時翁やう昇
養対術をつて其心と雪れ上
まあつたれはを染明まの
惠の夫とて悪魔と相ひけり
秋父の導の威徳とて大
君の世と治りてを思ふを勅

使^レ上^レに^レ勅^レ使^レを^レ候^レの^レ由^レ
 と^レあ^レは^レい^レと^レ宜^レへ^レと^レ今^レ何^レ
 と^レう^レつ^レま^レへ^レき^レ我^レ前^レの^レう^レ經^レ
 なる^レ三^レ歸^レの^レ弱^レあ^レは^レう^レ日^レ前^レの^レう^レあ^レは^レ
 ち^レ勅^レ使^レ卿^レ待^レ多^レく^レ夕^レ月^レの^レそ^レ冬^レ
 舞^レ樂^レと^レ奏^レ一^レを^レす^レ又^レの^レ樂^レと^レ
 あ^レは^レせ^レと^レい^レう^レと^レる^レは^レ方^レ弱^レハ^レ

へ女ガリハタリ

若^レ陰^レの^レあ^レは^レさ^レる^レて^レ向^レは^レあ^レは^レ
 あ^レは^レい^レり^レ行^レは^レさ^レる^レは^レい^レも^レは^レい^レも^レ
 天津^レの^レく^レ雲^レの^レ角^レの^レ吹^レき^レり^レ
 よ^レじ^レ女^レの^レ衣^レめ^レと^レ行^レき^レ音^レと^レき^レ
 へ^レは^レ乃^レ輓^レ声^レも^レさ^レや^レ海^レの^レ樂^レと^レ
 奏^レ一^レは^レ上^レは^レ是^レ醫^レ王^レ佛^レの^レ化^レ
 現^レ無^レ病^レ息^レ災^レの^レ方^レ便^レハ^レ為^レ三^レ歸^レハ^レ

三十一

一席勤

天よきとてのやうな事なす
 金河清き流のうへに
 もえの松乃木をあらわ
 神乃恵みのきりぎりす
 新あはれうしてあら妙なる
 きりく 急ぎ見へる名
 なるまゝてはたぬるに
 神地

こゝろよくいふ事あり水け
 のやうてふ事ありき
 わたしとておろしき
 乃木とて有徳の代つ
 人よきとておろしき
 えて千代萬代のまゝ
 神地

民ありて恵の國といふ久しに殊なり
多の屋の神踏山のり末そりけ
きよりき御裳躍河のまうりてあ
と田の早苗のたれそすうり又
はも國は豊なるのさあて和種と
時種と納り下代より和末そあ
秋大君の國をまじひけりも同し

君直を世にまはす
 のみあはしふやハ例の海とて
 おもて吹凡のそふなうそぬ天地
 の非のうとくさる程やく
 万平

見おの方人な事ぬきさすの所
いおの事とていりけること
見おの事とていりけること

河内水と云ふ也入剌偏位のきり
 へたさうも此小田は付て謂へや
 淡^ニ式^ニは是ハ神の^ニ田^ニて又
 此河内神靈^ニ河^ニて神水^ニあり
 田水^ニ豊^ニあり^ニ熊河^ニあり^ニ田^ニ面^ニ
 也入^ニ神^ニ德^ニ長^ニ又^ニ玄^ニ惠^ニあり^ニ
 ま^ニつ^ニこ^ニと^ニて^ニは^ニお^ニけ^ニ裳^ニ濯^ニ河^ニ

こ^ニは^ニつ^ニれ^ニ世^ニより^ニの^ニお^ニと^ニる^ニ
 ば^ニ裳^ニ濯^ニ河^ニと^ニ号^ニし^ニ事^ニ人^ニ王^ニ十^ニ代^ニ終^ニ
 仁天皇^ニの^ニ皇^ニ女^ニ日^ニ本^ニ姫^ニと^ニ云^ニふ^ニ御^ニ神^ニ
 鏡^ニと^ニ裁^ニき^ニ國^ニと^ニつ^ニり^ニお^ニと^ニる^ニ
 當國^ニと^ニて^ニあ^ニれ^ニ二^ニ見^ニの^ニ浦^ニと^ニい^ニハ
 路^ニと^ニつ^ニり^ニの^ニち^ニり^ニ給^ニひ^ニし^ニ御^ニ裳^ニ
 も^ニう^ニ院^ニと^ニな^ニり^ニし^ニと^ニ此^ニ河^ニと^ニ云^ニふ^ニ諸^ニま

三寶の神寶と云
ついで授けられし其三寶と云
て八咫の鏡の珠玉と云
はつと云ふ其鏡の
萬虚と云ふ一物と
貯へしと云ふ清く正直と授
けられし日月

の恩徳と云ふ
當宮乃神徳と云ふ
あまの神代の昔と云ふ
代はつと云ふ神初と云ふ
天皇は宇かよと云ふ
希して皇を神と云ふ
は本えの和と云ふ
皇の世と

三十一
法華經卷第三
如來為の誓ひ佛も同一の心
自性真如の月よみの祇もあは
しんぞうの文有秘文祇道の
くもぬれと受てちる人
今も秘文一ヶの流ぬる
はしも家よお人君と祇の胆を
心物語も老人の心あは
るも老人の心あは

あゝ妻をいふ言
るもあはるる
時鳥一声あはるる
るもいふ言
吾自玉の神よとて裳羅の
わい傳あはるる
跡もあはるる
あゝ妻をいふ言
るもあはるる
時鳥一声あはるる
るもいふ言
吾自玉の神よとて裳羅の
わい傳あはるる
跡もあはるる

三
卷

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, written on aged, yellowed paper. The text is arranged in several lines, with some words underlined. The script is cursive and characteristic of the Ottoman or Persian periods.

ワキ、しち、り

若和

文治もろく四方の國く國戸
 さらてやぶと^コ 杉見へ當へ
 はへちり島下あり 杉で汝君賢
 王とてはるもひはよう 吹門校と
 あへちり民戸さへとさへね代は
 ては帝の宣旨は接し 津守の

毛同、目、中、の、も、ま、ね、恵、ふ、ろ、
有、親、父、おや、さ、く、市、は、さ、き、ふ、れ、月、
面、白、兒、松、の、内、うち、伊、勢、鴻、や、塩、丁、は、
ひ、う、な、ま、く、も、く、は、ら、け、は、い、け、
お、此、代、は、あ、ま、さ、の、玉、首、か、く、お、時、
ち、も、ま、れ、ま、て、民、豊、な、る、な、の、と、
何、は、な、さ、せ、秋、津、の、を、ら、ふ、ま、う、こ、

あ、も、開、お、兒、寶、八、市、は、さ、き、ふ、ろ、
へ、不、思、儀、や、お、見、は、る、市、人、と、さ、ま、へ、
姿、の、う、ろ、人、は、る、う、声、を、倭、詞、あ、る、が、
金、湯、は、ま、ま、と、さ、く、入、て、持、つ、ろ、う、も、
牙、さ、い、う、あ、る、人、ろ、ニテ、り、お、代、ろ、と、
あ、ま、あ、う、な、る、と、又、見、お、る、珠、の、松、
は、物、の、寶、お、れ、る、龍、女、の、寶、珠、と、

うらなひ

早 賢人そ山より出仙人も世を
有親くづれ侍る代のき
おあひまうおはすあまの
初め寶と持より委奏聞人
あふ六うやうひるるそあう
今甫の玉とて寶珠なり其

ふおはすも津ら甫の玉意
のそはたなり意なり
とすはるおはる水意寶珠
とす君は捧ちる宝珠
るるるるるるるるるる
海 青の原はよりるるる
おはるるるるるるるるる

松^ト事^トい^ニ秋^ニ津^ニ鳴^ニ収^ニ官^ニ柱^ニ位^ニ古^ニ松^ニ
 の^ニみ^ニる^ニる^ニの^ニ光^ニる^ニる^ニに^ニせ^ニは^ニさ^ニ
 く^ニ上^ニ久^ニか^ニる^ニ乃^ニ天^ニ探^ニ目^ニの^ニ磐^ニ石^ニと^ニあ^ニ
 け^ニ代^ニつ^ニく^ニく^ニに^ニ早^ニ備^ニ秋^ニ之^ニ下^ニ界^ニ
 として^ニ非^ニと^ニ致^ニし^ニ君^ニと^ニら^ニる^ニ秋^ニ津^ニ
 鳴^ニ収^ニの^ニ龍^ニ非^ニあ^ニり^ニ或^ニハ^ニ非^ニ代^ニの^ニ佳^ニ
 例^ニと^ニう^ニし^ニス^ニハ^ニ代^ニの^ニを^ニく^ニ

宣^ニの^ニけ^ニを^ニ守^ニ護^ニと^ニあ^ニり^ニ其^ニを^ニや^ニ
 く^ニ磐^ニ石^ニと^ニよ^ニす^ニる^ニ及^ニの^ニ鞍^ニ拍^ニ子^ニと^ニ
 う^ニう^ニて^ニさ^ニや^ニく^ニい^ニさ^ニる^ニさ^ニい^ニは^ニい^ニや^ニ
 磐^ニ石^ニあ^ニの^ニさ^ニう^ニる^ニに^ニの^ニ鞍^ニ拍^ニ子^ニと^ニ
 非^ニの^ニ拍^ニ子^ニと^ニ打^ニあ^ニり^ニさ^ニり^ニ及^ニり^ニさ^ニ
 くて^ニ位^ニ古^ニの^ニ松^ニの^ニ吹^ニよ^ニと^ニよ^ニさ^ニい^ニは^ニい^ニ
 さ^ニう^ニさ^ニと^ニと^ニや^ニり^ニさ^ニり^ニさ^ニり^ニく^ニう^ニさ^ニ

てらるゝに家外へハ大龍王の海に死
行はれぬの程とすまじくカク安ん
ひられぬつとありきうてなきに古
月を宝としむと付ちあねもね方の
持地運しやとやわたりくへ銀珠玉ふ
さみちて山々といつとて浦の君とち
アハ神の世にばいり代ごて成より

羊子之序

志賀

通有沙代の花見月く然る日
 方く長閑なり 相見く當今より
 ありけりあり 相見く花見月く
 桜今と感あるより承及ひて
 唯今志咲の山く急い^上て
 然るありけり雲の朔朗く^初長閑

乃音羽山今朝起るは是るは
 公お志賀の山部や湖遠きあ
 かつく連や志賀の部の名を
 こゝろ昔あつた山桜のまはり
 川でも心なれえ牙も情のゆゑ
 露は日さぬ樵歌牧笛の声人同
 萬事様とせ成つるう行牙の

形勢地毎に老る眼の前えの影と
 やとろしあまふ山と遠き
 来く雲霞跡と立ちて入つ
 かもきつ波のく谷の音雨を
 つまきて松の毛おえや謬て
 来日の客たうも今牙のうき
 まだうくかたお是あ

人よりいへばさるる人より新なり
 花の枝をさうく人休む所も是なり
 花乃陰なり。是ハ心乃て休む。又新
 乃宜なり。やもさるるが。是ハ面自
 事とす。事ハ物也。花乃新なり。是ハ
 もさるる。通野ノたより。花乃梅也。
 花乃新なり。是ハ心乃て休む。又新
 乃宜なり。やもさるるが。是ハ面自

人より不審なり。人よりさるるを
 花乃新なり。是ハ心乃て休む。又新
 乃宜なり。やもさるるが。是ハ面自
 事とす。事ハ物也。花乃新なり。是ハ
 もさるる。通野ノたより。花乃梅也。
 花乃新なり。是ハ心乃て休む。又新
 乃宜なり。やもさるるが。是ハ面自

を以て尊え言葉の元なる
かちく今この道きやうく入る
こゝや久賢うー時代を事なり
正花の聖代の古く回とちか
て萬枝の枝をたふさふ
彼神時よりうて和歌乃より
うて古く今この詠奇と櫻ひ二聖六

歌仙と始りて具外の人野
のうこれ言ひうる林よあひさ
本葉の露のふりさく人
うへたよあひさや
人あきぬ後此の情さうや
親淑安積山の陰る山の井
のぼる人誰う思ふ露は霜来

ねふあまや廣く真砂ふりね多き
言ふ葉のふたれたのふ香はも妙
あや敷鳴れ道有は代の現ひ
建良三十字一文字に神も守護
みひし無見項相の来も感應た
まふへ君も安んずる万民時をた
ふく都圓滿の雲の下口海ハ

的のふくも坂の声万声のひに
長閑きりし
さふ萬の政乃道直はわたり日東
南子雲收り西子門遊る言葉
林栄行やなる常盤の山松のり
たふし声はも是和歌名詠
ねふあまや廣く真砂ふりね多き

志賀良玉

舞・子・の・声・う・あ・た・あ・ま・く
 雪・あ・る・い・も・た・ひ・袖・も・も・も・あ
 花・の・つ・た・乃・志・あ・れ・山・越・も・あ
 花・園・の・里・も・春・あ・く・心・は・海・の・志
 次・唐・海・に・松・の・心・も・十・声・の・ま・の
 長・国・は・海・に・あ・る・て・る・中・鏡・山
 年・経・ぬ・る・才・は・老・う・る・も・あ・る・も・あ・る・も・あ・る

見へる花の白綿の生えたる
 も神子の舞の山の人
 く新の永き日も幼き和歌の
 ありしやうとて君の
 長閑なるを花の雪
 あらう踏破の心より
 の声なきは神樂の小山

